

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所としての理念はつくってある。理念に基づいた実践を心掛けている。	理念は各ユニットの玄関に掲示されている。職員はお互い理念を理解し共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の床屋さんへこちらから出掛け散髪している。花火大会、マジックショー、秋の獅子舞等行事の時も声掛けさせていただいている。	入居者が近所で散髪したり、運営推進会議の委員が隣近所にホームの行事の声かけをしていただき徐々に交流の幅が広がっている。長野市安茂里支所で行われる作品展やバザーにも出品しており、ホーム主催の花火大会などにも地区住民の方が大勢参加している。中学生の職場体験の受け入れは、継続して今年も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員の人数を増員(近隣の方3名)、地元中学校生の職場体験の受け入れを行い、理解をいただこうと努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員は運営推進会議をしている事は知っている。代表の者が別の場所で会議をしており、詳細については重点を職員会議にて報告している。	2ヶ月に1回、奇数月の第3金曜日に開催し、家族代表、近所の住民、地区役員、市職員、地域包括支援センター職員で構成され、入居者の様子やサービスの取り組み状況を報告し、頂いた意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の際には担当者へ、暮らしぶりやADLの状況などを伝え理解いただく様努めている。他の方面に関しては管理者に一任している。	管理者が担当者と連絡を取りながら市との協力関係を築くよう取り組んでいる。市よりのあんしん相談員(介護相談員)の任期2年が過ぎ、交替の相談員がまだ派遣されていない。新しい相談員の派遣を市にお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、あってはならないものと理解はしている。しかし開所～現在に至るまで玄関の施錠はしている。(道路、線路が近くにある為)	職員は身体拘束について学習し、主旨を十分理解し、拘束のないケアを行っている。車イスの方が食事をするときには食堂の椅子に移動していただき楽しんでいただいている。ホーム近くには交通量の多い道路や線路があるため危険が予測されることから家族の了承を得て玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修はしていないが、資料は事務所にあり、いつでも閲覧できるようになっている。管理者より言葉の虐待(暴力)というものも含め注意するよう喚起された事もあり、個々で注意している。		

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会の必要性がある。 成年後見人制度を使った方が良いと思う人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者、相談員が多方面に渡り説明を行っている。又随時疑問、不安な点が発生した時には、職員が聞き取り、管理者より説明を行い、理解、納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見、要望を伺う体制は取れている。その方々の立場、目線でくみ取る様心掛けている。意思要望は申し送り、スタッフ会議、ケアプラン等で反映させている。	開設から3年目に入り意見が表出できる方が約半数ほどとなっているが、出来ない方には表情や動きで読み取っている。家族には毎月「ホームの生活記録」と担当職員の添え書きを届けており、2ヶ月毎にホームの新聞も送られている。年2回家族会があり、意見を聞き運営に反映させている。ホームへの信頼度が高まりつつあり出席率も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議の他にも、日常的に意見、提案を聞いてはいる。しかし内容により、全てを反映させることは難しい。(ハード面、経費、就業面、ケアの質等)	管理者は常時職員の意見に耳を傾けている。毎月1回定例職員会議があり、提案や意見が双方向で出されている。酸素使用法のトレーニングを受けた職員が講師となって勉強会を開くなど研修報告等は職員間で共有し、実践に活かしている。今回の自己評価も職員が各々参加し、意見が集約されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	託児所設置、中学生以下の子供に対しての看護休暇を設け、リフレッシュ休暇も年間で2日あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表で研修を受けた者が職場に戻り内部研修をして実施している。外の研修へ行ってない職員もいるので、順番で行く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間のネットワークとして善光寺ネットに入会している。2ヶ月に1度交流、勉強会を行っている。		

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では通所、入院先などを主体に訪問、ご本人や職員、ケアマネより聞き取りを重点に置かせていただいた。不安や心配事があれば、入居前に出来る限り解決するように努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家人の話は相当量傾聴している。それから1つ1つ不安や要望等に応じていき、心配事を解消していただき、関係作りに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家人の他にケアマネージャーを通し、デイ、ショート利用時の情報をもらったり、事前面接に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ご苦労さんありがとう」と頻繁に励まし、お礼を言っている。風習や郷土食作り(おやき)を教えていただく場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出は可能な限り受け入れている。日頃の生活ぶりは毎月の手紙の送付や来訪時に伝えるようにしている。入居してしまえばお任せという家人も多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院へ継続して行かれる方がおられる。又、家族、親族、知人等の面会は多く、関係が途切れることなく支援できている。	最高齢の入居者の友人が訪れお互いにおしゃべりを楽しんでいる。入居者には地元出身の方が多いので住んでいた近所の知人や元の職場の友人なども多く、その関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	波長の合う、合わないはどうしてもある。他者との接触を好きな方もいる。いい関係を築けている方達もあり様々だが、孤立する事の無い様可能な限り職員が声掛けを行っている。		

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家人へ電話をかけ、病院への面会、新しい施設への連絡、面会等行い、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士で話し合い本人本位(目線)で検討、把握しようと努めている。毎日思いや希望が変わる事もある。だが可能な限り、耳を傾ける事はしている。	会話や表情、行動から思いを汲み取り、本人本位の支援に心がけている。家に帰りたくなると胸の痛みを訴えたり、日によって気持ちが変わったりするが、耳を傾け、どんな暮らしを提供出来るか職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、ご家族へセンター方式の用紙への記入を依頼している。生活歴を知るツールの1つとして有効であった。現在はご本人との会話、家族との話の中でも聞くことができしており、把握できつつある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムは当然ながら全員が違うがご本人自身で生活の成立する方、そうでない方の把握から残存能力はどこまで在るのかを職員全員で周知できるよう、記録、申し送り等を欠かさず行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、更に深い関わりの中で本人、家族らとの話の場を多く持ってもらう様にしている。担当者からの意見、アイデアを聞く事が多いが、チームとしてのモニタリング。	1~2名の入居者の担当制を取り入れており、入居者の会話、表情、行動、職員間の情報から計画作成者が相談しながら介護計画書を作成している。見直しの期間を3ヶ月と定めており、家族には内容を伝え承諾を得ている。状態に変化が見られる時には現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがある。昼夜の生活ぶり、ケアの実施内容等を記入しており、申し送りや記録を見る事で情報の共有をしている。ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	Dr指示による協力HPへの送迎やクリニックへの送迎は行っている。PTIに来てもらい、ADL面(立位、歩行、リハビリ)の観察評価をもらった。		

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同地区の在宅の事業所のケアマネとのつながりを持ち、共存できるようにしている。推進会議には包括支援センターの代表者の出席、助言をいただいている。近所の理髪店を利用。秋祭りには玄関に獅子舞が来てくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医師が週1回往診。他科受診に関しては家族が同行。困難な場合は管理者が代行。本人の希望にて整形外科へ受診に行かれた人もいる。	入居の際、家族の希望によりクリニックに変更している。法人の医師による往診が毎週あり、薬局とも連携しているので家族は安心である。歯科に関しても協力医がいる。他の専門科目に通院する場合には家族が付き添いをしているが、都合がつかない場合には職員が代行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は報告しており、又管理者自ら現場にも入っており、適切な看護を受けられる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な際には、本人に関する情報を速やかに提供し、病院スタッフ、家族との情報交換、定期的なお見舞いを管理者が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重度化、終末期に対する指針は書面にてお渡しして説明。	「入居者の状態が重度化した場合における対応についての同意書」があり、「重度化した場合における対応に係る指針」の説明がされ、本人や家族は内容を理解している。高齢の入居者の中にはホームでの看取りを望んでいる方がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の学習会で現在習得中。しかし全員が実践力をつけるには繰り返し、定期的な学習会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力のもと、年2回避難訓練をおこなっている。過去の訓練は全て火災の想定だったので、地震、水害想定での訓練を予定中。ご近所より有事の際にはうちの店舗に避難してほしいとお話をいただいている。	年2回消防署の指導のもと、入居者も参加し、通報訓練、避難訓練などを行っている。そのうち1回は夜間想定で行っている。スプリンクラー、火災報知器も完備されている。近所の方から有事の際の店舗の使用申し出があり、身近な所での理解者がおり心強く感じている。	運営推進会議時に東日本大震災の教訓から委員より地震・水害を想定した訓練の提案が行われ、今年度は地震・水害想定訓練も行う計画がある。より多くの防災訓練を体験することで非常時に備えていただくことを望みたい。

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、敬意を払っているつもりだが、馴れ合いの中で声掛けの時には思わずざっくばらんになる事がある。守秘義務についての理解、実行、書類の管理は行っている。	ホームに入ると温かな雰囲気、1軒の大家族のように会話が弾んでいる。そんな中で職員は入居者一人ひとりが築いてきた人生に敬意を払い支援している。職員は個人情報の保護や守秘義務について十分理解し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方はいる。それに対しては希望に沿い支援している。出来ない方には「どれにしますか？」が言えずに「これでいいですか？」「どっちにしますか？」になってしまう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や入浴など職員都合のペースで声掛け、実践する事もしばしばある。個別対応、希望に沿っては現状難しく、職員が音頭を取って、レクリエーション等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長髪の女性は整髪介助(束ねる)。男性にはヒゲ剃りしていただき、剃り残しは介助。毎朝洗顔介助。本人の馴染みの美容院でカットをしてくる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食は難しいが、食材、料理の内容によっては一緒に準備していただいている。同じテーブルで利用者と職員と一緒に食事をしている。どんなものが好きか、食べたいかを聞き献立に反映している。誕生日メニュー有り。	食事作りはそれぞれ自分の出来る範囲で参加し、職員と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。好みを聞いて献立に反映したり、行事や誕生日などには特別メニューを入れ変化をつけている。ホームで献立を考え、食材は法人の利用する業者から納入して貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付ける量を個々に変える、水分が足りないとと思われる人には助言を行い、ポカリスエットやジュース等で味の変化を付け足している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行えている方にも磨き残しがありそうなので、最後の所では磨きなおし(仕上げ磨き)を行っている。歯科医師より誤嚥性肺炎の予防の話聞いたことから継続中。		

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、排泄パターンの把握。誘導する方、方麻痺の方の介助等個々に合わせた支援をしている。夜間リハパン+尿パット使用の人を昼夜布パンツにて、おむつの使用を中止した。もう1人は尿パット使用をやめて、リハパンだけにしている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表に沿って声がけしトイレに誘導するなど個々に合わせた支援を行っている。自立の方、リハビリパンツやパットの方、布パンツなどを使用している方、おむつの使用を中止し様子を見ている方など多種多用である。夜間のみポータブルトイレを使っている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック(量、形状)、記録している。朝の牛乳、日中のヨーグルトの摂取、野菜、繊維質の摂取や水分補給にも配慮している。ラジオ体操、歩行も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方は1名いるが、入浴が楽しみという方がほとんどである。個浴にて個々のサービスが出来、プライバシーの保護もできている。時間、曜日は指定したものになっている。	普段会話が少ない方もお風呂ではおしゃべりをし、本音が出る。入浴介助時には1対1で入居者と接することから、職員は本人の思いや希望を聞きだす大切な機会と捉えている。1週間に2回は最低入浴している。入浴剤等は使わず米糠を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠剤内服されている方はなし。日中もご本人本位で居室で休まれる方は多いが、今まで昼寝の習慣が無かった方もいる。温度、湿度の変化により空調、寝具の調整を行い、安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース毎に整理し、職員は内容を把握できる体制である。何の薬か、注意点もでているので、それぞれで目を通して、誤薬の無い様に注意も払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員並に働きたいと思っている方がおり、無理の無い程度で家事を手伝ってもらっている。利用者の経験や知恵に助けられる場面もあり、楽しみごとの提案、準備、フォローは継続したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った個別外出支援は今のところ出来ていないが、家人親族等が外出や外食を希望されれば、出掛けていただいている。春から桜、リンゴの花見、善光寺参りと複数名で外出は行っている。	年間の外出計画が立てられている。行事外出の際には本部から運転手付きでマイクロバスを借り、花見や善光寺参り、繁華街の七夕見物などに参加している。家族にも声がけをすることもあり、職員も含め数回の班に別けて出掛けるので色々な交流が生まれている。時折、家族と連れ立って外出する方もいる。	

グループホームコスモスあもり・しなの棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の所持は今のところしていない。家族よりお金を預かり、事務所で一括管理している。必要であるという時には職員が買い物代行、又は一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人より電話がきて、本人に代わってほしいと言われれば、取次をしている。その時には周囲を気にしない様に居室に移動していただき、ゆっくりお話していただくよう配慮している。手紙も届いた物はご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差は無いので、安全性は保たれている、トイレ掃除は毎日行っているが、便器に便の付着があればその都度洗浄している。温度、湿度は常に気にしており、不快感のない空調管理を行っている。ひな人形、五月人形を飾り季節感を感じていただいている。	玄関は各ユニットにあり廊下で行き来が出来る。壁には入居者の写真があり南向きに建てられた食堂兼居間からはベランダ越しに野菜畑や花が見られ、空き地や新しい住宅が広がっている。共有スペースには段差がなく、手すりや風呂等が入居者の行動を考え造られている。空調管理が行き届き、時季に適した最適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの1人になれる空間は無く、あくまでも居室になっている。気の合った人たちはその時々でイスをあげて和気あいあいやっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや仏壇、使い慣れた椅子、ぬいぐるみを入居時より持ってこられ、自分の部屋となっている。	自分で作った趣味の小物を飾ったり、傍に作りかけの縫い物の入った裁縫箱が置かれた居室、亡くなられた方の写真と位牌が安置されている仏壇が置かれた居室、タンス・椅子・テレビなど使い慣れたものが持ち込まれた居室など、入居者の思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左麻痺で車イスの利用者には、左麻痺様のトイレ使用。目に見えたハード面での環境作りだけでなく、すり足気味の方に杖を持つよう声掛け、フラつき気味の方には必ず付き添う等行い、ソフト面での対応工夫している。		